

西郷村行政改革推進委員会

# 令和元年度 外部評価報告書

令和元年10月

西郷村行政改革推進委員会

## 目次

1. はじめに.....	2
2. 行政改革推進委員名簿（外部評価） .....	3
3. 外部評価の概要（平成 30 年度基本施策及び事務事業の外部評価） .....	4
(1) 行政改革推進委員会（外部評価）の開催経過 .....	4
(2) 外部評価の視点.....	4
(3) 評価対象の選定.....	5
4. 外部評価結果.....	6
(1) 施策の個別評価結果.....	6
(2) 全体的な意見について.....	14
5. 今後の行政評価のあり方（課題等）について .....	15
(1) 選定方法及び審議の流れについて.....	15
(2) ヒアリング時の担当課の対応について .....	15
(3) 外部評価実施に対する全体的な意見・感想について .....	16

## 1. はじめに

西郷村では、平成29年度からの10年間を計画期間とした「第四次総合振興計画」を定め、『人と自然が輝き笑顔を未来へつなぐ「さわやか高原公園都市」にしごう』を将来像とした政策・施策体系が構築されました。

第四次総合振興計画の進行管理においては、個別の事務事業を中心とした事務事業評価から、「施策が効率的・効果的なのか」、「事務事業が適切なのか」を評価する施策評価を導入し、行政評価制度が構築されたところであります。

第四次総合振興計画初年度である平成29年度は施策の内部評価を試行的に行い、平成30年度から第三者の視点からの評価及び意見を聴取することにより、施策評価の客観性と透明性を高めることを目的に外部評価が導入されました。

外部評価の方法は各自治体で様々であり、村としては試行錯誤を重ねながら検討を進めるものとなりました。各委員の専門性や経験、見識等を踏まえながら、積極的な議論を重ね、更には施策を評価するにあたっては、担当課からの説明や質疑応答を実施し、効果性や必要性、公平性等を中心に評価及び検証を進めてきました。

本報告書は、平成30年度の施策評価について本委員会が、行政評価の目的である「事務事業の改善」「行政の説明責任の向上」「職員の意識改革」を達成するための議論の結果をまとめたものであります。

評価の過程で、資料提出やヒアリングに対応していただいた事務担当者をはじめ事務局である企画政策課担当者の方々に委員一同感謝申し上げますとともに、村民の幸福と村の発展のため、この内容を真摯に受け止め、施策展開や事務事業等の見直しに活用する中で、常に村民の立場に立ち、村政運営に尽力することを期待するものであります。

令和元年10月 委員一同

## 2. 行政改革推進委員名簿（外部評価）

任期 自：平成29年12月 1日

至：令和 2 年11月30日

役 職	委 員 氏 名	所 属 等	備 考
会 長	藤原 一哉	福島大学経済経営学類 教授	
副会長	花安 紀夫	西郷村行政区長会 会長	
委員	居川 孝男	東北税理士会白河支部 監事	
委員	金田 裕二	西郷村農業委員会 会長	
委員	村田 清	西郷村教育委員会 教育委員	
委員	遠藤 玉美	西郷村婦人会連絡協議会 会長	
委員	菊地 幹雄	西郷村商工会 理事	
委員	大越 則恵	西郷村環境審議会 副会長	
委員	西坂 雄冶	社会福祉法人西郷村社会福祉協議会 会長	
委員	結城 さおり	西郷村立西郷幼稚園 P T A副会長	

### 3. 外部評価の概要（平成 30 年度基本施策及び事務事業の外部評価）

#### （1）行政改革推進委員会（外部評価）の開催経過

会 議	開 催 日	内 容
第 1 回	令和元年 6 月 26 日（水）	・ 行政評価の進め方について ・ 外部評価対象事業の選定について ・ その他
第 2 回	令和元年 7 月 31 日（水）	・ 外部評価方法について ・ 外部評価（ヒアリング形式） ・ その他
第 3 回	令和元年 8 月 28 日（水）	・ 外部評価結果について ・ 外部評価報告書について ・ その他
第 4 回	令和元年 10 月 11 日（金）	・ 外部評価報告について ・ その他

#### （2）外部評価の視点

外部評価は、施策目標の達成度、課題認識、総合評価を視点として、以下の項目について外部評価結果としてまとめることとしました。

① 施策の指標及び目標値の妥当性

各施策における指標、目標値の妥当性を検証する。

② 進捗状況

内部評価の妥当性を検証することを基本とし、それを踏まえて施策の進捗状況を次の 4 段階の区分で評価する。

評 価 区 分
A：計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B：ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C：目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D：目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。

③ 提言等

施策とそれを構成する事業の関連性について、進捗管理の視点からは一步踏み込んだ形で、「必要なのか」「有効なのか」などの視点から意見を内部評価の指摘事項等及び提言等として取りまとめる。

### (3) 評価対象の選定

評価対象の選定については、本委員会で全ての評価を行うことが困難であること、各種指標や内部・外部評価の進め方についても、検討の必要があることなどから、第四次総合振興計画に掲げる8つの基本目標からそれぞれ1基本施策を外部評価委員会において抽出し、8施策を対象に実施することとしました。

No	基本目標	分野	コード	基本施策名	担当課名
1	希望に満ち、子どもたちが健やかに育つむらづくり	子ども・子育て・少子化対策	1-2	幼児期の教育・保育の実施	福祉課 学校教育課
2	自らを高め、共によりよく生きるむらづくり	教育・文化・スポーツ	2-1	学校教育の充実	学校教育課
3	活力ある、交流とふれあいのむらづくり	産業・観光・交流	3-3	観光・交流の活性化	産業振興課 企画政策課
4	快適に暮らし、利便性の高いむらづくり	都市基盤	4-3	住環境の整備	建設課 生涯学習課 財政課 企画政策課
5	自分らしく生き、笑顔があふれるむらづくり	保健・医療・福祉	5-1	健康づくりの推進	健康推進課 産業振興課
6	自然と共生し、環境にやさしいむらづくり	環境保全	6-1	自然環境の保全	環境保全課 学校教育課 上下水道課 産業振興課
7	安全が守られ、災害に強いむらづくり	防災・防犯	7-2	防犯・交通安全の推進	住民生活課 総務課
8	共に考え、協働するむらづくり	行財政運営	8-1	協働によるむらづくりの推進	総務課 生涯学習課 企画政策課

## 4. 外部評価結果

### (1) 施策の個別評価結果

基本目標	1	希望に満ち、子どもたちが健やかに育つむらづくり
基本施策	1-2	幼児期の教育・保育の実施
主担当課名	福祉課	
関連課名	学校教育課	
①施策の指標及び目標値の妥当性		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「保育士の充足度」「保育施設の充実度」も指標とするべきである。</li> <li>・3年保育・預かり保育の実施を目標としているためニーズ調査を早急に実施し、実施に向け検討するべきである。</li> </ul>		
②進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B		ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C	○	目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等	<p>●施策の進捗としては「C」と判断する。早急に見直しの検討が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての指標に対して実績値が低く達成されていない。</li> </ul>	
③外部評価からの提言等		
内部評価への指摘事項等	<p>●内部評価は概ね適正に実施されていると判断する。しかしながら、次の点は見直しを図ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待機児童対策、多様化する教育・保育ニーズに対しても保育士の確保は喫緊の課題である。その課題解決に向け対策は実施されてきているが、原因等を分析し、限られた財源の中でより効果的な取り組みを検討する必要がある。併せて公立保育園の民営化に向けロードマップを早急に作成する必要がある。</li> </ul>	
提言等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早急に村立幼稚園の幼保一元化の検討や多様なニーズに対する対応について検討されたい。なお、検討にあたっては専門的な委員会を組織すること。</li> </ul>	

基本目標	2	自らを高め、共によりよく生きるむらづくり
基本施策	2-1	学校教育の充実
主担当課名	学校教育課	
関連課名		
①施策の指標及び目標値の妥当性		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。          しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別施策の指標として「いじめや不登校対策」、「国際理解教育や情報教育」、「総合的学習の成果」や「給食への無農薬野菜等の使用率」などを指標として設定すること。</li> </ul>		
②進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等	●施策の進捗としては概ね「B」と判断する。	
③外部評価からの提言等		
内部評価への指摘事項等	<p>●内部評価は概ね適正に実施されていると判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内部評価にあたっては、教育の質をより向上させ、充実化を図るという視点を強く意識すること。</li> </ul>	
提言等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育のALT派遣が月一回程度であるため、ALTにこだわらず英語圏から来た外国人を臨時で雇用するなど週二回程度派遣できる体制の構築を検討されたい。</li> <li>・現在、中学1年生だけ実施しているがブリティッシュヒルズを活用した英語教育を検討されたい。</li> <li>・児童生徒が抱えるいろいろな問題が多様化し、ますます複雑になっているため、スクールソーシャルワーカーの増員等を検討されたい。学校教員と他の専門職の連携を強化することは教員の働き方改革にも繋がる。</li> <li>・学校・家庭・地域が一体となり、有機野菜や無添加などの地場産品を使用した安全安心な学校給食への取り組みを図られたい。          （調味料は昔ながらの伝統製法で作られたものを子どもたちに伝えていけたらよりよい給食になる。）また、食物アレルギーに対応できる調理設備の導入を検討されたい。</li> </ul>	



基本目標	3	活力ある、交流とふれあいのむらづくり
基本施策	3-3	観光・交流の活性化
主担当課名	産業振興課	
関連課名	企画政策課	
①施策の指標及び目標値の妥当性		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本版 DMO の設置（着地型観光）検討について進捗率等を説明すること。</li> </ul>		
②進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B		ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C	○	目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等	<p>●施策の進捗としては「C」と判断する。早急に見直しの検討が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ合宿以外に実績値が低く達成されていない。</li> </ul>	
③外部評価からの提言等		
内部評価への指摘事項等	<p>●内部評価は概ね適正に実施されていると判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内部評価において、必要性が「C」評価について説明すること。</li> </ul> <p>【施策 3-3-3、事業番号 10 家族旅行村事業】</p>	
提言等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光パンフレットを製作しない SNS 等を活用した村の観光 PR 手法について検討されたい。</li> <li>・家族旅行村（キョロロン村）、温泉健康センター（ちゃぼランド）など周辺公共施設（旧勤労者体育施設）の今後のあり方について、経営の専門家を含めた検討委員会等を組織し長期的な視点を持って早急に検討されたい。</li> <li>・インバウンド対策については、庁内全体において課題意識を共有する必要がある。</li> <li>・西郷村観光協会を「まるごと西郷館」へ設置することを要望する。</li> </ul>	

基本目標	4	快適に暮らし、利便性の高いむらづくり
基本施策	4-3	住環境の整備
主担当課名	建設課	
関連課名	生涯学習課、財政課、企画政策課	
①施策の指標及び目標値の妥当性		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定住促進住宅の入居率が年々減少している。入居率向上に向けた取り組みを検討すること。</li> </ul>		
②進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等	<p>●施策の進捗としては概ね「B」と判断する。しかしながら、次の点は要因等进行分析し検討が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての指標に対して実績値が達成されていないため、原因の分析と対策を検討すること。</li> </ul>	
③外部評価からの提言等		
内部評価への指摘事項等	<p>●内部評価は概ね適正に実施されていると判断する。しかしながら、次の点は見直し・検討を図ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者負担の公平化を図る観点からも、住宅使用料収納対策強化を図り、収納率向上を図ること。</li> </ul>	
提言等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちおこしセンターの更なる利活用について検討されたい。</li> <li>・定住促進住宅子安森宿舎の再整備を含めた今後のあり方等について検討されたい。</li> <li>・ブロック塀撤去新設、木造住宅耐震診断・改修支援事業等の周知の徹底を図られたい。</li> </ul>	

基本目標	5	自分らしく生き、笑顔があふれるむらづくり
基本施策	5-1	健康づくりの推進
主担当課名	健康推進課	
関連課名	産業振興課	
①施策の指標及び目標値の妥当性		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県を参考に特定保健指導受診率や特定疾病等の重症化予防率も指標として検討されたい。</li> <li>・からだの学校事業は学校登録者数が少ないため、増加を目指し事業内容の見直しや充実を図られたい。</li> </ul>		
②進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等		<p>●施策の進捗としては概ね「B」と判断する。しかしながら、次の点は要因等を分析し検討が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・からだの学校参加者数は増加してきているが、健康管理についての理解度等も指標とすべきである。</li> </ul>
③外部評価からの提言等		
内部評価への指摘事項等		●内部評価は概ね適正に実施されていると判断する。
提言等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣病の改善には、子どもの頃からの取り組みが有効であるとの事例もあるため、学校教育における子どもの健康づくり、生活習慣病対策等を検討されたい。</li> <li>・特定健康診査の受診率向上に向けた取り組みや対策を検討されたい。</li> <li>・引きこもりの実態把握及び対策を検討されたい。</li> </ul>

基本目標	6	自然と共生し、環境にやさしいむらづくり
基本施策	6-1	自然環境の保全
主担当課名	環境保全課	
関連課名	学校教育課、上下水道課、産業振興課	
<b>①施策の指標及び目標値の妥当性</b>		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。          しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。          ・ゴミの減量化や川の水質等、環境に関する指標とすること。</p>		
<b>②進捗状況</b>		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等	●施策の進捗としては概ね「B」と判断する。	
<b>③外部評価からの提言等</b>		
内部評価への指摘事項等	<p>●内部評価は概ね適正に実施されていると判断する。          ・環境保全への具体的な取り組み内容がわかりにくいいため、シートを事業内容別にすること。</p>	
提言等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化対策を推進するためにも福島議定書への参加を村内全ての学校や企業に促すこと。</li> <li>・企業がもたらした公害や対処等を含め、村の環境について分かりやすい内容で「環境白書」としてまとめ村民へ提供や学校教育等で活用されたい。</li> <li>・野鳥の生息調査、植生や生物の調査を進め環境教育や観光の資源としても活用されたい。</li> <li>・農薬空中散布を行う地域の住民等へ防除の必要性について理解を深めてもらうとともに、散布日時や散布ほ場を記した図面等の配布による周知や防災無線による広報など丁寧な情報提供に努め、病害虫防除効果と危被害防止効果が十分に得られるよう図られたい。</li> <li>・大規模太陽光発電所の開発は、山林の大規模伐採による土砂災害への危険や発電事業終了後の廃棄物処理等、将来への負の遺産となりうる懸念を払拭することが出来ない。このため、一定規模の大きさを超える開発に対し、村独自の条例や要綱等を定め事業者へ環境配慮を求める手続き等を規定するべきである。</li> <li>・小中学校の太陽光発電売電事業について、売電するだけでなく子どもたちへの環境学習の教材として活用されたい。</li> </ul>	

基本目標	7	安全が守られ、災害に強いむらづくり
基本施策	7-2	防犯・交通安全の推進
主担当課名	住民生活課	
関連課名	総務課	
①施策の指標及び目標値の妥当性		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の犯罪の多様性、複雑性、とりわけ SNS などを通じ、子ども、未成年が被害者となりやすく、また、高齢者を狙った特殊詐欺も後を絶たない。このような犯罪に対する対応等の指標も啓発と併せて検討すること。</li> </ul>		
②進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等	●施策の進捗としては概ね「B」と判断する。	
③外部評価からの提言等		
内部評価への指摘事項等	<p>●内部評価は概ね適正に実施されていると判断する。しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢ドライバーの交通事故防止を図るため高齢者運転免許自主返納対策を検討すること。</li> </ul>	
提言等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り込め詐欺防止電話器の無料貸与を検討すること。(自治体からメーカーに問い合わせが殺到し生産が追いついていない様なので、村も早期に検討すべき。)</li> <li>・空家対策について、平成30年度に空家等対策計画を策定しているが、計画に沿った具体的な取り組みを推進する必要がある。</li> <li>・犯罪等の抑止のため村内へ防犯カメラを設置検討されたい。</li> </ul>	

基本目標	8	共に考え、協働するむらづくり
基本施策	8-1	協働によるむらづくりの推進
主担当課名	総務課	
関連課名	生涯学習課、企画政策課	
①施策の指標及び目標値の妥当性		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政区加入率等を指標とすること。</li> <li>・ホームページアクセス数は増加しているが、見やすさわかりやすさの評価も指標とすること。</li> </ul>		
②進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等		<p>●施策の進捗としては概ね「B」と判断する。しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政座談会の実施回数が低すぎる。</li> </ul>
③外部評価からの提言等		
内部評価への指摘事項等		<p>●内部評価は概ね適正に実施されていると判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人と地域の絆づくり事業」が創設され評価する。さらに、活用されるようPRされたい。</li> </ul>
提言等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからのまちづくりは、村が主導的に行うのではなく、村民協働の考え方に立ち、村民等及び村との役割分担で進める必要がある。このために村民協働の認識を研修等で職員一人ひとりに浸透させ、職員の意識改革を図られたい。</li> <li>・生活スタイルの変化や個人主義の風潮により、コミュニティ意識の希薄化や形骸化、活動担い手の減少が深刻化している。住民参加を促し、参加の実効性を高めていくための第一歩は情報共有の徹底である。 現状においては、村が主導的に情報発信を行っているが、様々な団体（婦人会、ボランティア団体等）の活動内容等の情報発信方法も検討し、積極的な住民参加を促す仕組みづくりを検討すること。</li> </ul>

## （２）全体的な意見について

施策評価の目的は、行政評価を通じて「総合振興計画の施策体系の中で果たすべき役割を認識しながら、各事業の目的、成果、課題、コストを意識し、村民目線に立って、事業の見直し、事務の改善に取り組み、効果的かつ効率的な行政運営に取り組みこと」である。

今回、外部評価を実施した結果、下記のとおり課題等が挙げられているので、改善を図りたい。

### ○職員の評価に取り組む姿勢について（内部評価含む）

内部評価が前年同様になっているものが見受けられ、各担当部局において内部評価が単なる作業とならないよう下記の点に留意しながら実施されたい。

- ・内部評価の総合評価について、指標が達成されていないにもかかわらず A 評価や B 評価が見受けられる。達成しなかった原因等を分析し、次年度以降対策を検討するべきである。
- ・今年度で 2 回目となるが、内部評価が前例踏襲的な甘い評価になってしまいがちで、制度の形骸化が懸念される。職員の事務事業評価に対する理解や説明責任を果たそうとする意識の向上に努めて欲しい。
- ・指標、目標値の設定が事業の目的とずれているため、委員会の評価は少々厳しいものとなっているが、決して職員の取り組む姿勢が悪いものではない。外部評価結果に基づき事業の課題を掘り起こし、どう解決するかを見極め、指標の見直し等を図られたい。

### ○施策評価シート及び個別評価シート等について

委員会は、ヒアリングを通して内容の詳細を把握し、シートの不明な点について確認することが出来るが、村民は公表されるものだけを見ることになるので、今後も下記の点に留意しながら評価シートを作成すること。

- ・施策評価シート及び個別評価シートの記載に当たっては、施策を評価する、総合振興計画の進行管理を行うという目的に沿った評価をするとともに、村民の目線に立ち具体的でわかりやすい記述並びに様式に心がけること。
- ・計画・実施状況を具体的に示し、評価の妥当性が判断できるようにすること。基本施策評価シートの全体総括を外部評価に記載するなど見直すべきである。

### ○むらづくり指標、個別施策の指標・目標について

設定された指標の妥当性及び達成度を検証するという作業は、この行政評価の根幹を成すものである。村の現状と課題を施策や事業を展開することでどの様な状態にしたいのか達成度合いが村民に伝わるような指標を設定する必要があるため、今後下記の点に留意し改善を図られたい。

- ・事業の目的に対する指標設定になっていない。事業の目的、目標を良く理解し指標を見直すべきである。

### ○外部評価の反映について

今回の行政評価では、大枠でみた施策の評価になっていたため、具体的な個別事業について、評価を反映することは難しいと思うが、下記の点に留意し次年度の予算に反映させること。

- ・外部評価をより効果的なものにするには、前年度の課題を解決するために、どのような取り組みを行ったか確認することが必要であるため、次年度は 1 回目の会議においてその説明を要望する。

## 5. 今後の行政評価のあり方（課題等）について

### （1）選定方法及び審議の流れについて

10か年の総合振興計画の前半5年間で28個全ての基本施策を8つの基本目標から1つずつ選ぶという形で2年目の外部評価を行いました。8つの基本目標は、この報告書本文の表に明記されています。それぞれの基本目標の中の基本施策の数は、幅があり（2から6）、3年目の外部評価では、同一の基本目標の中で複数の基本施策を対象にすることとなるでしょう。今回の評価では、昨年の評価した施策とは異なる基本施策を対象にしました。昨年の報告書に対する担当課からの「外部評価への対応方針」が今年度の外部評価の最初の会議で示されました。外部評価を受けた村の対応改善という、理想的な評価循環（計画、実行、評価、改善という、いわゆる「PDCA サイクル」）に近づく動きとして評価したいと思います。ただ、今年度の委員会としては、今年度の評価対象施策にばかり目が向かい、昨年度の外部評価に対するこの「対応方針」に関する議論は不足していたと思います。いように考えれば、「対応方針」は、村の行政改善の段階であるから、外部評価委員会は、村の取り組みを信頼し、その対応に関する情報は共有するというレベルが適当であると言えるでしょう。

昨年同様に対象の基本施策の個別事業に関する詳細な資料もいただいて、担当課に関するヒアリングの質問を事前に提出し、昨年の倍以上の時間をかけて事前質問に対する事前回答を受けてヒアリングを行いました。このヒアリングといただいた資料を基に各委員が各自の判断で8つの基本施策に対する評価を行い、本報告書が完成しました。昨年も述べましたが、この外部評価の大前提として、担当課を中心とした村役場の内部評価があります。自分の仕事ぶりを自分で評価することは、我が国では始まったばかりであり、しかも日常業務をこなしながらの内部評価であるので、評価の中心的部分であるとはいえ、「過重労働」にならないように、日ごろから自らの仕事に対する意義と結果を村の総合振興計画と結び付けて自覚的に意識しながら業務を遂行することが必要になると考えます。そのためにも、担当課内（複数の担当課にまたがる場合もある）での風通しの良い議論が行われる職場風土が大切になるでしょう。

また、外部評価の対象となった基本施策に関する監査報告書、各種審議会報告書等の資料も事前に提供していただきたいという意見も出ました。

### （2）ヒアリング時の担当課の対応について

昨年の本報告書の要望であった、関連する担当課は全てヒアリングに同席され、時間も十分に取って頂きたいという点は、今年度はほぼ実現されました。ただ、委員会では、すべての課長ないし代理者が、ヒアリングにすべて同席すべきであるという意見も個別に表明されました。ヒアリング結果を村の評価組織で共有することは、当然のことであるので、基本施策の改善にはすべての村職員がわがこととして関心を持っていただきたいと思います。

職場の異動もあるので、外部評価の中心的作業であるこのヒアリングのポイントは、何らかの形で全職員の共有情報として頂きたいと思います。



### (3) 外部評価実施に対する全体的な意見・感想について

各評価委員の日ごろの活動や問題意識が十分に表明された委員会であったと思います。ただ、時間の制約もあり、十分な意見交換ができたとは確信できませんが、村の職員も会議に同席していたので、各委員がそれぞれの活躍されている場でさらに意見や提言を行うことが期待されます。昨年の要望事項であった、「子育て世代の委員」も実現できました。評価対象となった基本施策は、次世代の健全な発達を内容としているので、良かったと思いますが、まだまだその基本施策の重要性から言っても子育て世代の委員の数は、少ないと思います。増やす工夫をお願いしたいと思います。

今回の報告書の評価では、内部評価に対して総じて辛い評価となりました。同じ評価段階でも内部評価と外部評価では内部評価段階の説明文が施策の趣旨と若干ずれていることも辛い評価になった一因でしょうし、また各委員の平均をとって評価段階を決めると、一部の委員の評価が内部評価と同様の評価であったとしてもその他の委員が多数より低い評価であれば、委員会全体としての評価が下がります。各委員の評価段階に数字のポイントを付け、各委員の評価の平均を数字のポイントで示すことも必要かと思われます。

最後に、昨年から各委員が表明している問題ですが、本報告書にもある通り、5年間の「むらづくり指標」を毎年の達成度と政策の練り直しなどで見直すことができないかどうか検討していただきたいと思います。

西郷村行政改革推進委員会